

令和5年度静岡県（藤枝市）地域社会武道（なぎなた）指導者研修会  
〔中学校武道必修化特化型〕

開催期間：令和5年7月1日（土）～2日（日）

会場：静岡県武道館 第一道場・第二道場

派遣講師：【なぎなた】与語美恵 教士（愛知県なぎなた連盟理事長）

松井亮子 教士（山形県なぎなた連盟理事長）

参加者：36名

### 初日（7月1日）

開会式の後、全体の間隔をとって整列し、八方振り・しかけ応じ（1本目～8本目）を行った。与語講師は「角度・打突部位を意識してできているか」と受講生らに問いかけながら指導にあたった。また、しかけ応じの練習では、互いに動作や振り下ろしの角度を確認し合った。松井亮子講師は、構えや構える際の手の握り方が重要であると説明。中学校武道必修化指導書に構えの内容が記載してあるので確認をしてほしいとし、質疑応答を行い午前は終了した。



松井講師による講義

午後は、会議室Cにて松井講師による講義「中学校武道必修化に伴う『なぎなた』授業の推進」から始まった。武道必修化の経緯について説明やなぎなた授業の実施状況を示した。なぎなた授業の採用校を増やすために、全日本なぎなた連盟が用具の貸し出し（送料無料・費用なし）・各校の実情に応じた指導案の提示等を紹介した。また、他武道と比較したなぎなたのメリットである「男女共修が可能・直接のボディ接触がない・運動着でできる等」を説明した。

なぎなたは各県を担当するコーディネーターがいる。静岡県なぎなた授業の現状について受講生の太田氏は、「学校に『指導ノート』を紹介すると授業計画がしっかりしていて評判がよい。大規模校での採用は課題の1つであるが、体育教員が1、2名の学校は興味をもってもらいやすい」と紹介した。

講義の後、道場に移動し、「崖の上のポニョ」の楽曲に合わせて、リズムなぎなたを練習。5～6人一組で、演技・体さばき・上下振り・打ち返し等の基本技を盛り込み、各グループが工夫してリズムなぎなたを演武発表した。その後、しかけ応じの練習をして締めくくった。



グループに分かれてリズムなぎなたの創作

### 2日目（7月2日）

準備運動を兼ねて体さばきを行った後、授業を想定した声出しの練習を行った。声を出すのが恥ずかしい生徒がいるので、改善策として、号令者の発声の後に皆で発声をして動くという方法を試した。次に全体でしかけ応じの練習をした後、2つのグループ（「打ち返し選手権」と題した競技会・しかけ応じや全日本なぎなた形の練習）に分かれて練習した。「打ち返し選手権」では、参加者らが選手・審判・監督・呼び出しの役をそれぞれ担った。午後はグループを交代して、同様の練習が行われた。最後は、自由稽古を行い、派遣講師は巡回指導にあたり、研修会の全日程を終えた。